

# 訪看 ぬくもり

vol. 25  
令和8年4月発行



# 目 次

## 高まる訪問看護への期待

鹿児島県訪問看護ステーション協議会 会長 牧角 寛郎	1
----------------------------	---

## 臨床工学技士と訪問看護の「共創」～安心・安全な在宅ケアを目指して～

公益社団法人鹿児島県臨床工学技士会 会長 岡村 龍也	2
----------------------------	---

### 【令和7年度専門委員会活動報告】

○管理運営・業務検討委員会	3
○教育委員会	4
○広報委員会	5
○DX推進委員会	6

### 【地区活動報告】

○鹿児島地区	7
○指宿・南薩地区	8
○日置・川薩・出水地区	9
○伊佐・始良地区	10
○曾於・肝属地区	11

【訪問看護ステーションにおけるハラスメント研修】	12
--------------------------	----

### 【入会促進及び普及啓発リーフレットのアンケート結果について】

鹿児島県訪問看護ステーション協議会 理事 森 恵	13
--------------------------	----

【令和7年度鹿児島県訪問看護ステーション協議会総会・研修会】	16
--------------------------------	----

### 【鹿児島看護就職ガイダンス】

鹿児島県訪問看護ステーション協議会 理事 森 恵	17
--------------------------	----

### 【在宅医療推進フォーラムに参加して】

平和会訪問看護ステーション 管理者補佐 園田 邦子	18
---------------------------	----

【入会・ホームページのご案内】	19
-----------------	----

【編集後記】	19
--------	----

訪問看護を受けるには医師の指示書が必要です

#### 表紙写真 について

「髪の毛はないんだけど正月来るからカットしないとね」と、言いながらの撮影でした。



## 高まる訪問看護への期待

鹿児島県訪問看護ステーション協議会

会長 牧角 寛郎

本協議会会員事業所の皆様におかれましては、日頃より本会活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年末に、鹿児島県の人口が100年ぶりに150万人を割り込んだとの報道があり、改めて人口減少時代を実感した数字でありました。超高齢社会が進展する中で、医療と介護の複合ニーズを抱える患者が増加し、療養の場も多様化しています。また、コロナ禍を経て国民の死生観も徐々に変化してきたように感じます。

患者さんが住み慣れた地域で安心、安全に暮らすためには、医療は地域のインフラとして欠かすことは出来ません。特に、患者さんの生活の場において、心身を支える訪問看護師の皆さんは、専門的な医療ケアだけでなく、生活支援や家族への助言、主治医やケアマネージャーとの連携の調整、緊急時の対応や看取り、介護予防の推進など「地域包括ケアシステム」における中核的な役割を果たされております。

在宅療養を希望する患者さんのニーズの増加に伴って、訪問看護事業所も全国的に増加しております。その一方で非常に残念なことです、診療報酬の不正請求や過剰請求を行う事業所が度々ニュースで取り上げられています。厚生労働省では、不適切な事業所には報酬の返還を指導するとのことですが、私ども協議会としましては、訪問看護を業として担う責任の重さをしっかりと自覚しなければなりません。

また、訪問看護の利用者は高齢者だけにとどまりません。近年では、医療的ケア児などの小児の利用を求める声が多く聞かれるようになりました。本協議会でも、医療的ケア児を看ることができる訪問看護事業所が少しでも増えて欲しいとの思いから令和6年度に引き続き小児向けの教育研修会を2度開催しました。さらに、今年度は現地での参加が難しい奄美大島地区でも同様な実地研修を企画いたしました。実技研修の参加が難しい地区での研修の実施は、非常に喜ばれ、質の向上や県内の訪問看護体制の充実に寄与できたのではないかと思うところです。

今後、訪問看護は医療的ケア児から高齢者まで幅広い年齢層への対応力が求められます。その一方で、人材確保が困難となる中、生産性を向上させるICTの導入は欠かすことのできない時代を迎えています。協議会として、更なる研修の充実と現場でのICT推進を図っていきたいと考えております。

関係者の皆様方におかれましては、当協議会の活動に一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 臨床工学技士と訪問看護の「共創」 ～安心・安全な在宅ケアを目指して～

公益社団法人鹿児島県臨床工学技士会  
理事長 岡村 龍也

時下、貴会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より当会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、超高齢社会の深化と在宅医療への移行が加速する現代において、地域包括ケアシステムの中心として、患者さまの日々の暮らしと療養を最前線で支えておられる貴会の皆様に、鹿児島県臨床工学技士会を代表し、心より敬意を表します。

特に、離島やへき地を多く抱える鹿児島県において、患者さまが住み慣れた地域やご自宅で質の高い療養生活を継続できるよう支えることは極めて重要であり、生活と医療を一体的に担う訪問看護師の皆様は、まさに在宅医療の要であり、その役割は今後ますます重要性を増していくと確信しております。

近年、在宅医療の推進に伴い、人工呼吸器や輸液ポンプといった高度な医療機器の在宅利用が飛躍的に増加するとともに、その安全管理の重要性も一層高まっております。

こうした状況下で、患者さまの生活に寄り添い、24時間365日のケアを担う訪問看護師の皆様は、医療機器の操作や緊急時対応といった技術的側面に少なからず不安を抱えておられることと存じます。

訪問看護師の皆様が、各種医療機器に対し、自信を持って操作し、トラブルにも適切に対応できるように、当会は、これまで貴会をはじめとする関連団体と密に連携し、定期的な技術セミナーや実践的な指導、最新の情報提供等を継続的に行ってまいりました。

今後も、現場のニーズやご要望に柔軟に対応しながら、安心・安全な在宅医療ケアの提供という共通の目標に向け、質の高い専門的なサポートをより一層強化してまいりたいと考えております。

当会は、まだ不行き届きの点や至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくご厚意申し上げます。

末筆ではございますが、貴会ならびに関係者の皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

## 令和7年度 管理運営・業務検討委員会 活動報告

令和8年2月21日の訪問看護ステーション管理者研修会では8月の、始良霧島地区の豪雨災害をうけ課題に上がったこと、災害時の連携体制やBCPについての課題、協議会・事業所が取り組まなければならない事項を学ぶことを目的に、熊本県訪問看護ステーション連絡協議会 理事であり 訪問看護ステーション清雅苑の木村 浩美先生を講師に迎え開催いたしました。協議会として、各地区として、また個々の事業所としてどう取り組み、実践に生かせるBCP対策を策定していくかを学ばせていただきました。まだまだ初動ではありますが、鹿児島県訪問看護ステーション協議会として今後災害時にどう動くべきか、など豪雨災害から抽出できた課題をもとに検討すべきことを見出せたのではないかと思います。今後南海トラフなどの予測される災害も踏まえ実践に生かせるBCPとなるように、協議会としても次の段階に進歩していけるように研鑽していきたいと思ひます。

また今後とも、お悩み相談室は引き続き継続していき、管理運営委員が中心となり、お悩み相談シートを活用しつつ、DX委員と情報共有を図りながら活動課題の共有を図り、新たな会員への個別サポートを実施していますが、一方で新規会員入会への課題も残存しており継続した活動を行っていきます。

(文責:管理運営・業務検討委員会 梅田 香代 泊 奈津美)



## 令和7年度 教育委員会 活動報告

令和7年度は25年間続いた鹿児島県訪問看護ステーション協議会研究発表会を休止として教育委員会の活動を行いました。皆様のご意見の中に研究発表会が休止となるのは寂しいとの意見も聞かれました。皆さんの意見はとても貴重なものとして肝に銘じていきたいと思えます。

令和7年度は母子・小児における訪問看護師の育成と看護の質の向上を図ることを目的に、教育委員会研修会を開催しました。第1回教育研修会は、ハイブリットで行い、会場参加が26名、WEB参加が68名、計94名の参加がありました。アンケートの回収率60.6% (57/94)。管理者以外の参加が49% (28/57)、研修参加が1回目の方が67% (38/57)、研修参加の理由として「テーマに興味があった」が70% (14/20) でした。各先生方の講義はとても理解できたが80～90%であり、同じ企画で研修を開催して欲しいとの意見がありました。

第2回教育研修会では、講義と演習を交えて研修のため集合研修としました。63名の参加がありそのうち52名の方がアンケートに回答 (回答率82.5%)。始めて医療的ケア児を受け入れるにあたり役立ったとの意見を聞くことができました。今回、鹿児島県救急救命士の3名の方に参加していただき、乳幼児の心肺蘇生法の実技を実践することができました。ハイムリッヒ法を体験する機会は少ないので、参加者は真剣な表情で取り組んでいました。

また、3月19日には奄美大島で第2回研修会と同じような研修を開催します。

### 第1回教育委員会研修

10月4日(土)9:00～16:20

「小児の成長・発達について」 …根路銘先生

「フィジカルアセスメント」 …有村先生

「小児の摂食嚥下について」 …佐藤先生

「小児のリハビリ」(実技あり) …桜木先生



### 第2回教育委員会研修会

11月1日(土)9:30～16:00

「在宅医療における医療機器の安全な使い方」 …宮内先生

「医療的ケア児の急変時の対応」 …山田先生

「乳幼児救急搬送時の必要な情報(LIVE119の紹介)」

…鹿児島県救急救命士会

演習「人工呼吸器・HFV・気管カニューレ、胃瘻チューブ、カフティーパープ、乳幼児の心肺蘇生法」

※業者の協力あり



県訪問看護ステーション協議会の会員にとって、役立つ研修とは何かを考えながら教育委員会としての活動を進めていきたいと思えます。

## 令和7年度 広報委員会 活動報告

1. 広報誌「ぬくもり」の作成
2. SNS を使用し広報活動が推進でき、加入率のアップに繋げる
3. リーフレットを配布し、有効であったかアンケート調査を行う

事業計画として挙げ1年間活動してきました。

8/3 に鹿児島県庁で開催された「令和 7 年鹿児島就職ガイダンス」にも参加する機会がありました。看護学生や医療従事者へ訪問看護の活動やリーフレットの配布も出来アピールにもなり有効だった活動でした。

8/9 に開催された令和 7 年度総会後の研修として、びっぐすまいる訪問看護ステーション 柳田 千草様から「現場で起こる暴力・ハラスメントへの備えと対応」について講演会を開催してもらいました。「ハラスメントは許さない」管理者としてマニュアルの作成や重要事項説明書への記載などの早急に整備する必要があると再認識させられた研修でした。

目標 120 カ所のステーション協議会への加入を目標に広報委員会は取り組んでいます。

鹿児島で訪問看護を必要としている方たちが安心、安全に暮らせるようにクロまるちゃんのごとく

「いつでも、どこでも、誰のところにも跳んでいきます」

10月に念願のインスタグラムの開設も出来ました。是非、フォローお願いします。

今後はマスメディアを利用した広報活動も視野に入れていきたいと思えます。

宜しくお願い致します。



KAGO.HOUKAN

(文責:広報委員会 木藤 みづえ)

# 令和7年度 DX推進委員会 活動報告

## 1. はじめに

DX推進は単なるIT導入ではなく、記録の転記や手作業など「アナログな重荷」を減らし、利用者に向き合うケア時間を生み出すための取り組みです。

今年度の分析では、ITリテラシーのばらつきや経営層の理解、アナログ事務の非効率性が課題として再確認されました。また、迅速な意思決定が可能な独立型ステーションを重点支援対象とし、先行事例づくりを通じて県内全体の変革を牽引する方針を共有しました。

## 2. 主な取り組み

### (1) オンライン研修(2025年7月・3日間)

現場の心理的ハードルを下げ、「成功体験の獲得」を重視して実施しました(アーカイブ配信も活用)。

- 7/23: NotebookLMによる議事録作成(音声→AIで議事録化の実演)
- 7/24: 生成AI活用入門(ChatGPT/Gemini/Perplexity等、文書作成や関数生成の例)
- 7/25: DXなんでも相談会(座談会形式で困りごとを解消)

### (2) 現場起点のDX事例共有とリスク管理

地域の現場でのボトムアップの実践として、AIを用いた議事録作成・文書再構成などの事例を共有しました。

また、Googleフォーム等を入口にした業務デジタル化(例: アルコールチェック)や、記録時間短縮に資するツール活用の広がりを整理しました。

併せて、車両5台以上の事業所における「安全運転管理者」選任等、効率化と並行して遵守すべき事項を注意喚起しました。

※AI活用は、監査対応を見据え「効率化」と「制度上の正確性」のバランスを重視して支援しました。

### (3) 情報発信・BCPを見据えた基盤整備

DXへの関心を絶やさないため、DX Newsletterを計8回配信し、技術動向や県内事例を継続的に発信しました。

また、FAX依存からの脱却を進めるため、Googleフォームで各事業所のメールアドレス(メイン・サブ2系統)を収集し、災害時の連絡網強化を図りました。

コミュニケーション手段はChatworkを軸に、LINEオープンチャットやGoogleチャット等も比較検討しています。

(文責: DX推進委員会 畑中 勇二)

## 鹿児島地区 活動報告

鹿児島地区には、現在120か所以上の訪問看護ステーションが活動しています。各ステーションがそれぞれの地域で利用者様に寄り添った支援を行っておりますが、近年はコロナ禍の影響もあり、協議会への加入率の低下が見られます。

先日、災害時の対応に関する学習会を実施し、熊本県の訪問看護ステーションの方を講師としてお招きしました。講義では、熊本地震の経験を踏まえた災害時の対応や、地域全体で支援体制を構築するための取り組みについてご紹介いただきました。熊本では、ステーション間での情報共有や支援のネットワークが確立されており、その重要性を改めて実感する機会となりました。

また、年に1度、多職種連携の研修会も開催しております。今年は9月16日に実施し、事例を通してグループディスカッションや意見交換を行いました。看護師のみならず、リハビリ職・介護職など多職種が意見を交わすことで、新たな視点や協働の在り方について学ぶことができました。連携を図ることで、利用者様へのサービス向上につながることを実感しております。

今後は、広報活動を通して協議会加入の意義や重要性をより多くの方に知っていただけるよう、積極的に周知してまいります。

そして、地域の皆さまとともに、より強い支え合いのネットワークを築いていけるよう努めてまいります。



## 指宿・南薩地区 活動報告

指宿・南薩地区は9か所の訪問看護ステーションがあり現在5か所のステーションが協議会へ加入しています。加入率が低いため引き続きステーション協議会への加入促進に努めていきたいと思っています。

### 活動内容

- ① 南九州市では令和7年10月に介護人材確保対策検討会を市の主催で開催し訪問看護も出席しました。南薩地区は高齢化率の高い地区が多く南九州市も年々高齢化率が高くなっています。独居や老々介護が増えていく中で訪問看護や訪問介護の需要は高い反面、人材不足が大きな課題となっています。特に介護事業所は人材不足により閉鎖する事業所も増えてきており人材確保のための広報対策や初任者研修についてなど多職種の管理者が集まり意見交換や対策検討を行いました。
- ② 上記のように南薩地区では5か所が県ST協議会へ加入しており、少人数ですが2か月に1回地区ステーション協議会で各委員会報告や業務等での悩み事、困難事例などを提供し知恵を出し合いながら情報共有や意見交換など行っています。今後は地区の勉強会などを企画し管理者以外のスタッフも交えながら交流を図れるように取り組みが出来ればと思っています。



## 日置・川薩・出水地区 活動報告

日置・川薩・出水地区訪問看護ステーション協議会は現在24事業所のステーションで活動させていただいています。2か月に1回の協議会では、管理者同士の繋がりを大切にしています。情報共有だけでなく悩み事など相談しあいながら、協力して活動しています

### 活動内容

令和7年10月23日に第3回さつまるネット研修会が開催されました。大口市の訪問看護ステーションが取り組まれていた「コーシン浴について」と、薩摩川内市の訪問看護ステーションにより「腹膜透析の現状」と「小児の看取り事例」についての発表後、意見交換を行いました。在宅医の医師の立場からも意見をくださり、また沢山の質問や意見交換ができ、貴重な時間となりました。多職種での早くからの連携がとても重要であると改めて考えさせられました。さまざまな制度についてももっと理解を深め共有していく必要があると感じ、今後の課題として、取り組んでまいりたいと思います。



## 伊佐・始良地区 活動報告

始良・伊佐地区は、現在19事業所の訪問看護ステーションで市街地、過疎地まで幅広い地域での訪問をさせて頂いております。

### 活動内容

2ヶ月に1度の定期支部会にて、勉強会を含め情報共有・意見交換会を行っております。

令和7年1月のBCP研修会では各事業所の不足している部分の再確認ができました。

令和7年6月には、7年ぶりの新燃岳の噴火、8月7日、8日の豪雨災害と気候に翻弄された年でした。

災害時は、霧島での断水、幹線道路での通行止め等があり、支部ステーション協議会での素早い情報共有、県協議会からの水の配給協力があり、改めてBCP策定や継続の必要性を学びました。

医療面では、霧島医療センターでの始良霧島曾於緩和ケア地域連絡会、多職種合同研修会で利用者様のニーズに合ったそれぞれの立場からの貴重な意見交換ができたことで新しい発見や学びがありました。今後も、交流や連携を行い、利用者様に必要とされ、喜んで頂けるケアを提供してまいります。



## 曾於・肝属地区 活動報告

### 活動内容

曾於・肝属地区 訪問看護ステーション協議会は9月現在で15事業所のステーションでの活動をさせていただき、「リボン会」との名称にて1～2カ月に1回の会議や情報共有及び勉強会等を行っております。

昨年9月「ACP」について、認定看護師の講師の先生による勉強会を開催し『利用者の思い、願いに寄り添っ看護提供を行っていく事』について共に学ばせていただきました。

次回1月には、協議会の理事の方々をお迎えし『ハラスメント研修』を行う予定にしております。

今後の目標と致しまして、まだ協議会に参加出来ていない事業所へ参加も呼びかけ、さらに活動力を力にし、情報共有を行いながら地域に密着した訪問看護としての活動を進めていきたいと考えております。



## 訪問看護ステーションにおけるハラスメント研修

2025年度の地区研修及び地区交流会は下記の日程で、「訪問看護ステーションにおけるハラスメント」をテーマに、川薩地区の「びっぐすまいる訪問看護ステーション」柳田千草さんに研修をお願いし実施しました。

令和7年	11月20日	日置・川薩・出水地区
	12月 6日	始良・伊佐地区
	12月10日	大島地区
	12月20日	指宿・南薩地区
令和8年	1月10日	曾於・肝付地区
	2月21日	鹿児島地区

各地域での事象に沿った研修をしていただき細やかに対応や対策をご教示いただきました。



昨今の情勢からカスタマーハラスメントが社会問題になっており、訪問看護ステーションにおいても運営規定に掲載が義務付けられています。

訪問看護は一人でご自宅に行きケアを行います。その中で「病気だから」「可哀想だから」という理由で、看護師が暴力を受けても我慢してしまう事が多々あります。

どのような理由であっても、暴力は許されません。それは身体的な暴力だけでなく、精神的な暴力も同様です。

またハラスメントを受けることで、看護師が委縮してしまい、看護業務が行えなくなる事もあります。管理者のハラスメントに対する認識不足による2次被害も食い止めなければ、離職につながる事もあります。

今回の研修を受け、各地区の管理者が、それぞれ自事業所に持ち帰り、ハラスメントに対する研修を行い、より良い事業所運営につながればと考える次第です。

# 入会促進及び普及啓発リーフレットのアンケート結果について

鹿児島県訪問看護ステーション協議会 理事 森 恵

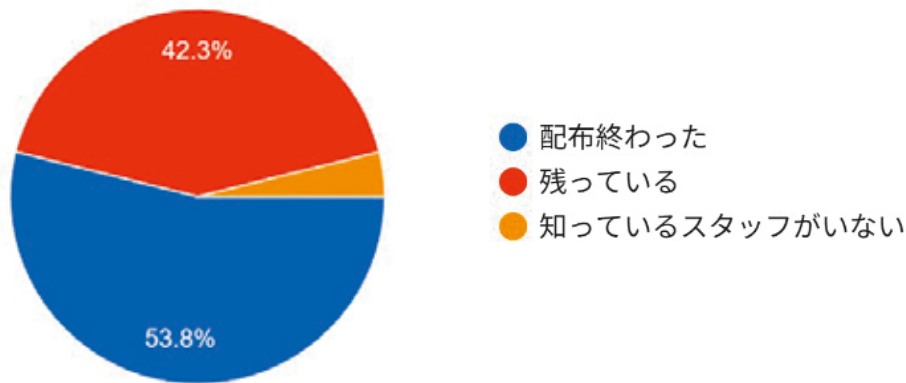
訪問看護の事業紹介と会員数増加のため、広報委員の事業の一環としてリーフレットを500部作成し、地域包括支援センターや自治体に置かせていただきました。

各地区の広報委員が広域の地域包括支援センターや厚生局へ持参しています。

その後、配布した事務所へリーフレットの活用についてアンケートを行いましたので、ご報告いたします。

## アンケート結果

### 1-1. リーフレットの利用状況(円グラフ①)

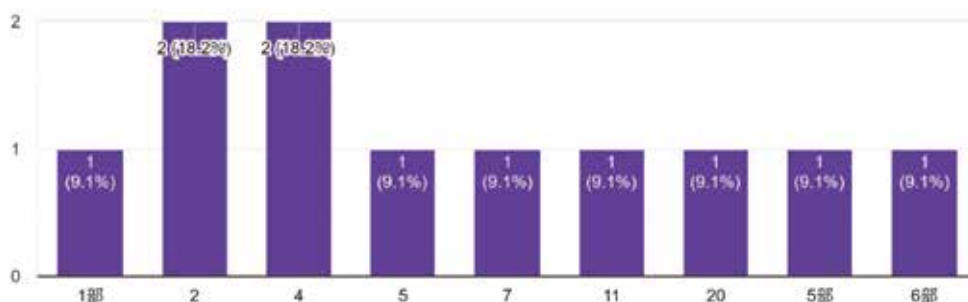


〈結果〉

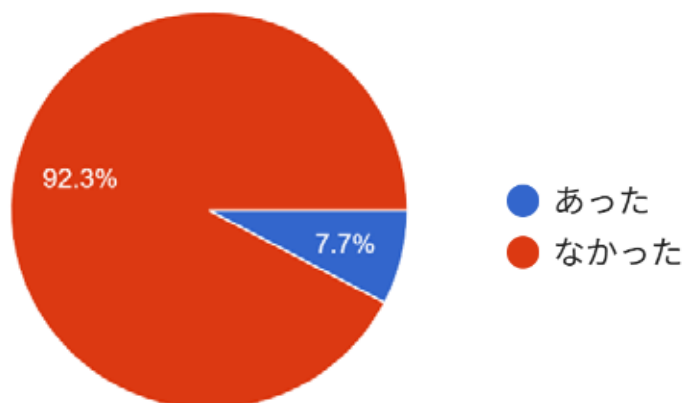
- 利用したことがある:53.8%
- 知っているが利用していない:42.3%
- 知らなかった:少数

リーフレットの利用状況については、「利用したことがある」が53.8%と最も多く、半数以上が活用経験を有している。一方で「知っているが利用していない」が42.3%と一定数存在していました。

### 1-2. 残っていると回答した方、残っている部数を教えてください



## 2. 訪問看護に関する問い合わせの有無(円グラフ②)

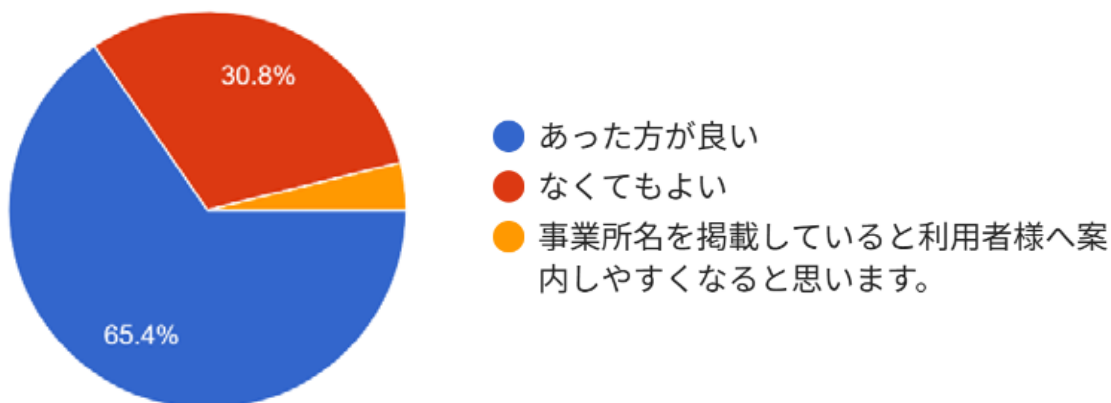


〈結果〉

- 問い合わせあり:7.7%
- 問い合わせなし:92.3%

リーフレット配布後の問い合わせについては、「問い合わせなし」が92.3%と大多数を占めました。リーフレット単体での直接的な問い合わせ増加には至っていない現状がうかがえます。

## 3. 今後の活用意向(円グラフ③)



〈結果〉

- 今後も活用したい:65.4%
- どちらともいえない:30.8%
- あまり活用しない:少数

今後の活用意向については、「活用したい」が65.4%と最も多く、リーフレットの有用性は一定程度評価されていると考えられます。

## 4. 活用場面について

- 新規相談時
- 利用の流れ説明時
- サービス紹介時

活用場面としては、「新規相談時」や「利用の流れ説明時」が多く、説明補助ツールとして使用されている傾向がみられました。

### 考 察

認知度および活用経験は一定数あるものの、問い合わせ増加には直結していないことが分かる一方、説明場面での実用性が高いことが示唆されました。

また配布時、許可が必要な事業所、自治体があり、配布方法の検討も必要と考えます。

今後は、

- 活用場面の共有
- 配布方法の見直し
- 内容のブラッシュアップ

を行うことで、より効果的な運用が期待されると考えます。



## 令和7年度鹿児島県訪問看護ステーション協議会総会・研修会

令和7年8月9日に令和7年度鹿児島県訪問看護ステーション協議会総会が開かれました。総事業所数106ステーション中、参加24ステーション(委任状48ステーション)となっています。

他の会議のため欠席の牧角会長にかわって、八田副会長から挨拶をいただきました。在宅医療と今後の訪問看護に対する希望と展望をお話いただき、会員一同身の引き締まる思いを胸にしました。

八田副会長の座長のもと、昨年度の会計報告、監査報告、次年度の予算報告、事業計画の発表を専門委員理事から行っています。特に途中入会事業所の会費について、会則に明記することになりました。また会員数120ステーションを目指すことで、1事業所の会費削減につながることも発表されています。新しい事業所が増えており、鹿児島県も230ステーションを超えています。会員は107ステーション(令和7年12月現在)と半数に満たない状況です。

今後も会員数を増やし、研修開催や情報発信を行い、鹿児島県の訪問看護ステーションの質向上を目指していきます。

また総会前日に始良・霧島方面で線状降水帯が発生し、被災したステーションや利用者も多くみられました。そこで会長と副会長の決意をもって、始良霧島方面のステーションに水を発送しています。今後はBCPを視野に入れて、県としての計画を立てる必要性を感じた出来事でした。

### 現場で起こる暴力・ハラスメントへの備えと対応(総会后研修会)

総会后研修として、現在喫緊の課題となっているハラスメントについて、「びっぐすまいる訪問看護ステーション」柳田千草先生にお話をいただきました。利用者や家族から訪問看護師が受けるハラスメント行為について、また管理者としてハラスメントを受けた看護師への対応についてお話をいただきました。途中グループワークもあり、それぞれの考え方の違いやステーションの在り方等も話し合いました。

ハラスメント対策を行うことで、離職防止につながるお話もしていただき、今後の管理者としての心得が理解できたのではないかと思います。

今後も会員事業所の困りごとや必要な事項の研修を行い、少しでも会員の役立ててもらおうと思います。



## 鹿児島看護就職ガイダンス

鹿児島県訪問看護ステーション協議会 理事 森 恵

令和7年8月3日に鹿児島県庁2階にて、「地元の看護の魅力を深掘り」というサブタイトルのもと、鹿児島県の看護の魅力を伝える鹿児島県看護就職ガイダンスが行われました。

1部：2年目の看護師から「小児科」「産科」「急性期」「慢性期」「回復期」など10部門から仕事の流れと、看護の魅力を発表がありました。「訪問看護」からは、訪問看護ステーションみなみ風の谷朱里さんが発表されました。

大学卒業直後の新人として、訪問看護ステーション勤務のカリキュラムに沿った教育内容や先輩看護師の働きかけ、自宅での看護の魅力などを話してくださっています。これまで訪問看護は病棟で5年程度の勤務を経て就職するのが通常でしたが、新人でも就職できるということを実践しています。今後看護学生が就職する際、訪問看護ステーションも視野に入れてくれるのではないかと感じました。

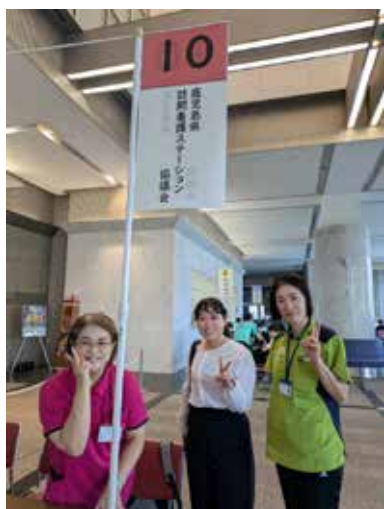
2部：県内の病院、クリニック、自治体と58のブースが参加し、就職活動をしている看護学生、県内外の看護師に看護の魅力を伝えました。

鹿児島県訪問看護ステーション協議会は、森理事、野間広報委員と訪問看護ステーションみなみ風の谷さんが一緒に訪問看護の説明を行いました。

看護学生やIターンの方の合計15名以上の方が、聞きに来てくださいました。特に看護学生たちから、「就職先として訪問看護ステーションも考えました」、「興味を持って聞きに来ました」等の言葉もきかれています。

今回鹿児島県として事業の一環で行われた就職ガイダンスですが、訪問看護全体の魅力と楽しさを詳しく説明できる機会だと思いました。

これを機に、少しでも訪問看護を就職先と考える看護師が増えることを希望しています。



## 在宅医療推進フォーラムに参加して

平和会訪問看護ステーション 管理者補佐 園田 邦子

2025年11月8日、鹿児島県第1回在宅医療推進フォーラムに参加しました。

「介護保険があぶない。介護あつての在宅医療」と題した上野千鶴子氏の講演では、在宅医療は医療職だけで完結するものではなく、介護職、家族、そして地域の支えがあってこそ継続できるものであることを、改めて実感しました。

続くシンポジウムでは、県内各地における在宅医療推進の取り組みが紹介されました。訪問看護ステーション代表からは、在宅現場で看護職が直面しているハラスメントの現状や、その具体的な対応策についての報告がありました。訪問看護師が安心して働き続けられる環境を整備していくことの重要性を、改めて強く感じる機会となりました。

翌11月9日には、九州在宅医療推進フォーラムが開催されました。本フォーラムは2010年に福岡県で第1回が開催されて以降、コロナ禍を除き、九州各県の持ち回りで開催されてきました。今年は第13回として鹿児島県での開催となり、2014年の第5回鹿児島大会以来、2巡目を迎えたこととなります。

私はこれまで、第5回鹿児島大会、2016年の第7回沖縄・宮古島大会、そして今回と、訪問看護に携わる仲間と共に参加してきました。各県からの報告では、医療・介護制度の再編、少子高齢化、人材不足といった共通の課題が示される一方で、地域特性に応じた工夫を重ねながら、前向きに在宅医療に取り組む実践が数多く紹介されました。そうした仲間の存在に、安心感と勇気をもらおうと同時に、日本の医療・介護の将来に対する不安も改めて感じました。

また、多職種連携の難しさは、どの地域においても共通する課題であることが浮き彫りとなりました。今後も、地域や職種の枠を越えた対話と連携を、継続して積み重ねていく必要性を強く感じています。

訪問看護は小規模事業所が多く、フォーラムへの参加が難しい現状もありますが、小旅行を兼ねて参加できる楽しさがあり、他職種・異業種の方々と交流できる貴重な機会にもなります。2026年は大分県での開催が予定されています。より多くの仲間が参加し、刺激を受けることで、鹿児島県の訪問看護、そして自事業所のさらなる発展につなげていきましょう。

## 入会のご案内

鹿児島県訪問看護ステーション協議会では、随時入会を受け付けております。近隣に新しく開設したステーションや、まだ入会されていないステーションがありましたら、入会のお誘いをお願い致します。入会希望の方は、入会申込書を事務局までお送りください。書式はホームページからダウンロードをお願い致します。

## ホームページのご案内

<https://kagoshima-houkan.jp/>



訪問看護ステーション協議会の活動やステーションのご案内をしています。

## 鹿児島県訪問看護ステーション協議会事務局（鹿児島県医師会館内）

〒890-0053 鹿児島市中央町 8-1  
 TEL : 099-254-8121 FAX:099-254-8129  
 E-Mail : isiiryo@kagoshima.med.or.jp



## 日本訪問看護財団電話相談サービス

相談対応日時：月曜日・水曜日・金曜日 9時から16時まで  
 TEL : 03-5778-7007

※詳細については、「公益社団法人日本訪問看護財団」ホームページをご参照ください。



## 編集後記

### 森 恵

事業として、インスタ開設やリーフレット作成など、色々なことをさせていただきました。少しでも会員の皆様に役立てればと思います。

### 木藤 みづえ

1年間広報委員会の活動させてもらいました。リーフレット配布、SNSなどなど新規取り組みもでき、広報に繋がったのではと思います。ありがとうございました。

### 宮菌 里美

1年間広報委員として活動を通し多くの事を学ぶ事が出来ました。ありがとうございました。

### 西川 尚子

初めての広報委員会で、戸惑いながらも1年を終えることができました。また次年度も皆さんと一緒に広報活動頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

### 野間 朋子

2年間、広報委員として関わらせていただきました。皆さんと合流し、ともに活動できたことは大切な時間となりました。多くの学びと出会いに感謝しています。ありがとうございました。

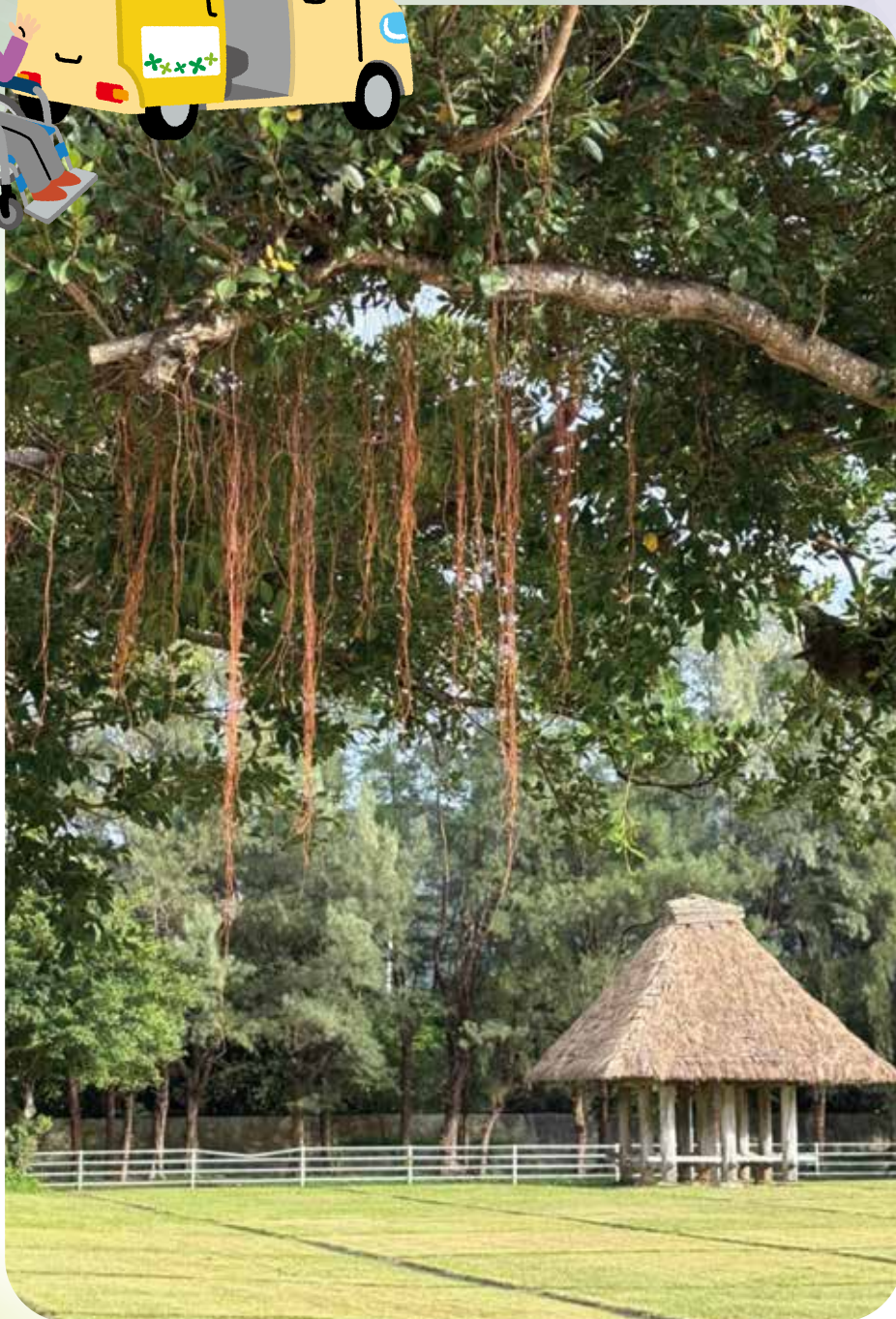
### 小原 千恵

はじめての県ステーション協議会の委員として活動させて頂きました。皆様との交流で、新しい発見もあり多くの事を学ばせて頂きました。1年間ありがとうございました。

### 井上 チエ子

途中交代のため短い期間でしたがお世話になりました。足を引っ張るばかりで何もできませんでしたが、とても勉強になりました。ありがとうございました。





## 鹿児島県訪問看護ステーション協議会

---

〒890-0053

鹿児島市中央町8-1(鹿児島県医師会館内)

TEL:099-254-8121 FAX:099-254-8129

Eメール: [isiiryo@kagoshima.med.or.jp](mailto:isiiryo@kagoshima.med.or.jp)